



No. 49

福島県立四倉高等学校
四倉PTA事務局
いわき市四倉町5丁目4
電話 32-5111
FAX 32-7131

『座談会開催』
就職・進学大躍進の一年

今年度は早くから就職内定率が高く、かつ、企業開拓も進んで、進路大躍進の一年であった。その中で、来年もつなげていこうと、PTA役員からの要望もあり、進路指導部長、各学年主任を囲んで、進路に関する座談会を開催した。

Q今年度の進路状況

（進路指導部長）「ずっと続けられる職場を勧めらるる」を目標に、離職率を減らし、職場とのミスマッチをなくすため、就職支援員との面談を実施した。生徒の希望を把握し、求人開拓・生徒への指導を的確に



できた。その結果、一度目の試験で、例年三割のところ、今年は八割の内定率であった。また、面接練習に職員一丸となって取り組み、企業の方から「面接の受け答えが素晴らしい。」との高評価をいただいた。しかし、常識テストの結果が基準に達しないという理由で断られた件もいくつかあり、基礎学力不足を痛感した。授業の大切さを再認識してほしい。

Q進路に向けた取り組みでよかったもの

（二年生主任）「（二年生主任）職場見学にいい印象をもってもらうよう指導して積極的に進めた。自

平成25年度 主な進学・就職先一覧

Table listing university and job placements for the 2013 fiscal year. Columns include '進学' (University) and '就職' (Job), with specific institutions and counts listed.

分の進路希望が具体的に言える就職支援員の新規開拓につなげられるのが有利。面接練習では自己PRができない生徒が多い。一緒に話をしながら導いてやる必要がある。ぜひ、家庭でも取り組んでほしい。

定期テスト一週間前には放課後、勉強会を実施し、生徒が残って勉強している。現段階で、国立希望の生徒もいるので引き上げを図っていききたい。



授業を望みたい。（南館丁）数学は分割で行っているので習熟度別にすればある程度は可能である。あとは、今回のようにマンツーマン指導で対応していきたい。

四高発合格体験記

仙台大学 三年二組 佐藤 桂
私は仙台大学体育学部に入りました。

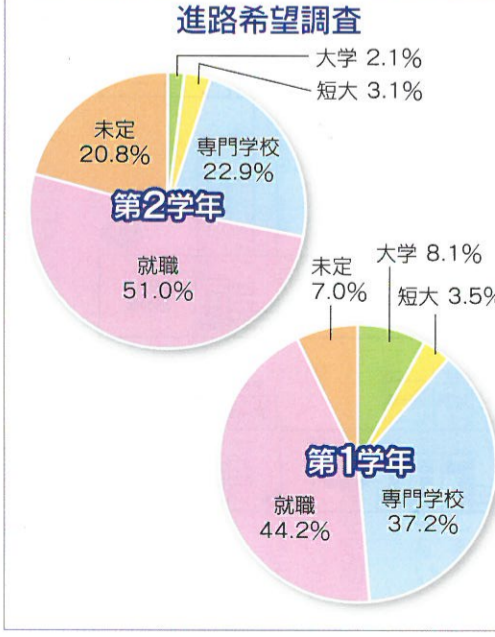
私が高校に入ってから陸上を始め、陸上が好きになり、高校を卒業しても陸上を続けたいと考え、仙台大学の受験を決めました。仙台大学に入学するには小論文と面接の勉強が必要でした。両方苦手な私は必死に勉強しました。先生方に二十回以上は面接練習をしてもらいました。小論文は、更に苦手で、始めの頃は先生に訂正される箇所がほとんどでした。でも、仙台大学に入学したい一心で入試までの一ヶ月半の間、何十枚もの作文を書きました。結果、入試前日には先

肢が増えるよ！」などやる気にさせる言葉をかけていく。先輩の声を聞く。進学希望者の間でライバル心を持ち合えれば変わっていく。オープンキャンパス等に参加することも意欲につながる。

進路指導部長より
企業や学校が生徒に望むことは「当たり前」のこと。当たり前に「元」である。元気がよく挨拶、身だしなみ爽やか、休まない、遅刻しない、困ったことを自分の言葉で伝えられる、大人ときちんとした言葉遣いでコミュニケーションがとれる、約束を守る、基礎学力をつける。当たり前前に行けるだろうか？

クリナップ(株) 三年三組 村田 晃己
私が進路実現に向けて動き出したのは、一年の三学期です。自分がどんな仕事をしたいのか、どこで働きたいのかなど少しずつ考えていきました。私は製造業に興味があり、第一志望をつ

リナップにしました。三年の五月には、受験する会社の過去問題や面接試験の対策を、進路室にある受験報告書を見て調べ、出題傾向を確認しました。クリナップは一般常識が出題されるということで、総合の問題集を活用し、夏休み中はほぼ毎日学校に行き、必死に勉強しました。分からないところはすぐ先生方に聞き、この作業を毎日行いました。夏休みだけで自習ノート一冊を使い切りました。しかし、面接なども最初から上手くはいかず、答えたい事をうまく言えなかったり、黙りこんでしまった



りと、失敗ばかりでした。面接官をして頂いた先生方に何度も指導されました。そこで私は面接用のノートを作り、指導されたことをまとめ、何度も本番のつもりで練習しました。すると少しずつですが、自分の中でも上達していくのが分かり、自信もついてきました。本番当日は、今まで自分が練習してきたことだけをいせれば良いと考え、筆記試験と面接を自信を持って受けることができました。自分なりに継続していくことが、力になるという事も分かりました。後輩のみなさんにもあきらめずに努力してほしいです。

高校生も変更になる可能性大? 就職・採用活動開始時期の変更について
平成二十七年卒業・修了予定者（現在の大学二年生等）から、広報活動は、卒業・修了年度に入る直前の三月一日以降に開始、その後の採用選考活動は、卒業・修了年度の八月一日以降に開始となります。（詳細は首相官邸ホームページ参照）

今年も開催できた! 四葉祭

平成25年10月25日(金)、26日(土)と二日間にわたり、今年も校内文化祭を開催することができた。1日目は「クイズブチ大会」「歌うまコンテスト」「有志発表」と熱いステージが続いた。2日目は「仮装コンクール」「ダンスバトル」とクラス対抗で火花を散らした。午後は芸術鑑賞会で遠藤弘毅先生の教え子である「あばれる君」が「クマムシ」とともに登場し、第一体育館は笑いの渦に包まれた。



あばれる君来る!



本年度芸術鑑賞会に出演した「あばれる君」はライブ、TV、CM等で活躍中の新進気鋭若手ピン芸人です。ご存知ない方は動画サイトでチェックして下さい。芸術鑑賞会では、漫才コンビ「クマムシ」と共に圧巻のパフォーマンスで会場を爆笑の渦に巻き込みました。

あばれる君こと本名・古張裕起君は私の前任校・白河高校の卒業生で、私が顧問を務めていた山岳部の主将でした。彼は当時から稀代のムードメーカーで後輩の面倒見も抜群! 登山中は様々なトラブルや苦痛がありますが、同校山岳部は登山技術や抜群のチームワークに加え、彼の類稀なリーダーシップにより、私も含め全員で楽しみながら山登りをすることができました。いわば「合同コント登山」です。そのおかげで県大会で優秀パーティーに選出され、全国大会(インターハイ)出場という快挙を成し遂げました。

部活動紹介、壮行会、文化祭等でも破壊力満点の笑いの爆弾で全校生徒の腹筋を崩壊させ、未来の片鱗を見せていました。

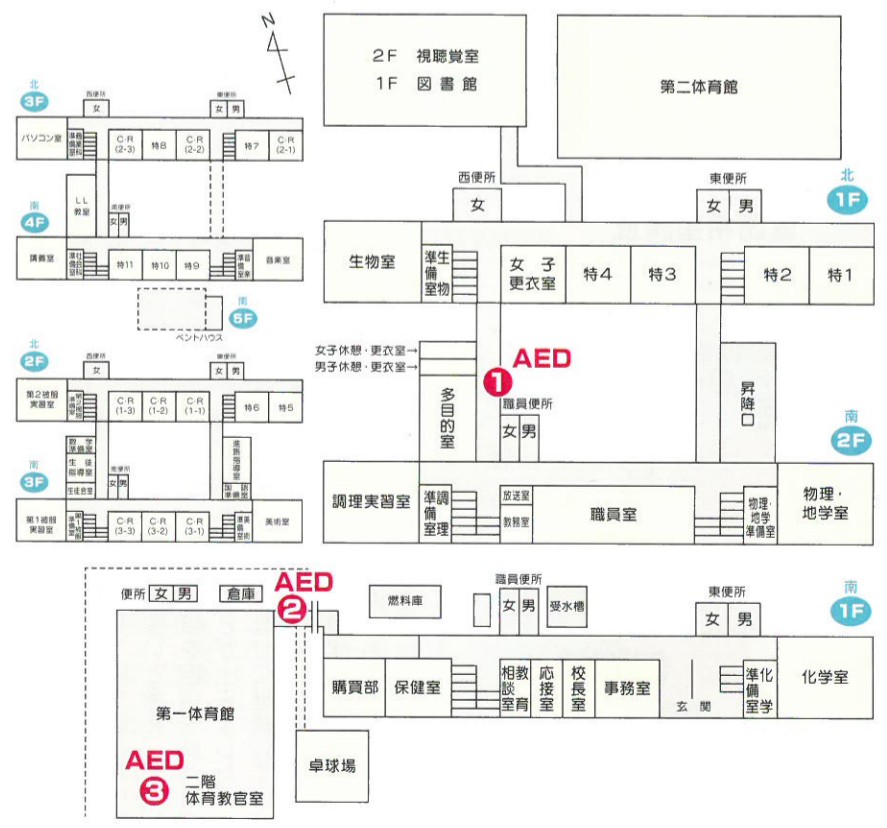
ハイテンションな芸風とは裏腹に、その面白さのバックボーンは「天然」や「アドリブ」といったものではなく、日々研究と修養を怠らない真面目さ、極上のサービス精神、絶対に諦めない気持ち、飽くなき向上心、周囲への気配りといったプロの流儀です。最近結婚をしたのですが、相手は高校の時から十年以上お付き合いしていた一歳年上の先輩です。

教え子の活躍は教員の好物です。四高生諸君も全員が何らかの分野で活躍できる潜在能力を秘めています。将来が楽しみです。

四倉高校の安全対策~非常事態に備えて~

AEDの設置

本校には、3台のAEDが設置されており、毎年、年度始まりの4月初旬にいわき市消防本部四倉支部の救急隊員の方々に来ていただき、職員研修が行われている。また、7月には一年生が全員、救命救急研修を受けている。





野球部
「全力疾走」「最大発声」「笑顔」「感謝」野球部員である前に四倉高校生であれ！自覚と誇りを胸に目指すは甲子園！
顧問 三浦 勲/古川 俊一



陸上部
☆己に勝つ☆走思走愛☆切磋琢磨
顧問 佐藤 琢麻/鷲 良光



サッカー部
県大会を目指して頑張っています。
顧問 小野 隆志/佐藤 正伸



バレー部
県大会出場を目指し、チーム一丸となって日々練習に励んでいます。
顧問 菅野 信人/菅野 貴史



バスケットボール部
みんなに応援されるチーム
顧問 遠藤 心平・金子 幸栄



柔道部
「上に出て上で勝つ」をモットーに常に上を目指して四高らしく頑張ります。
顧問 阿部 師久/鈴木 俊一



ソフトテニス部
[男子] 一致団結、元気に練習！勝って県大会に行こう！
顧問 近藤 順子



ソフトテニス部
[女子] The important thing is not to stop questioning.
顧問 遠藤 弘毅

部活動紹介



野球の応援



剣道部
継続は力なり
顧問 中村あゆ美/前田 恵美



卓球部
練習あるのみ。目指せ県大会。
顧問 南詔 孝栄/太田れい子



箏曲部
コンクールや発表会で演奏するだけでなく、大野中での箏曲指導も行いました。
顧問 瀬谷 浩子



吹奏楽部
少人数ですが、ソロ(独奏)の練習などもできるので、楽しく着実に力をつけています。
顧問 瀬谷 浩子



茶道部
茶道を通して、礼儀作法と「おもてなしの心」を学んでいます。
顧問 猪狩 玲子



華道部
「花は人の心である」楽しく一生懸命活動しています。
顧問 小川 悦子



美術部
50号や100号の大きなサイズの油絵やレーザークラフト作品に楽しくとりくみました。
顧問 土屋 裕子



JRC
「気づき、考え、実行できる。」が目標です。
顧問 坪井 紀子/佐藤 正伸



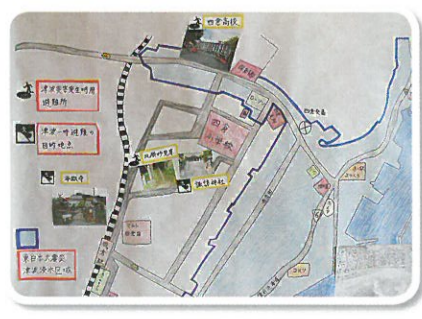
家庭クラブ
お料理講習会や保育所ボランティアなどの企画・活動を中心に、研究発表にも力を入れています。
顧問 折笠 浩美/前田 恵美

二、いわき市津波避難訓練(四倉町)の取材
八月に行われたいわき市津波避難訓練において、訓練に参加した町の方々にインタビューを行いました。



平成二十五年 家庭クラブいわき地区連盟 研究発表大会 学校家庭クラブの部 優秀賞 受賞 四倉高校家庭クラブ
題目「防災に関する研究」
一、四倉町の施設等にインタビュー
東日本大震災当時の四倉町の状況を知るため、四倉町の各施設等に訪問し、インタビューを行いました。訪問先は次のとおりです。
「いわき消防署四倉分署」「四倉支所」「四倉保育所」「四倉小学校」「四倉中学校」「四倉町区長会の会長」「小泉屋時計店」「四倉町商工会」「蟹洗温泉」「道の駅よつば」
「本校の養護教諭」「四倉町に住む本校生徒」

三、本校生対象のアンケートを実施
災害時伝言ダイヤルの活用方法を知っているのは、わずか四割でした。また、非常持ち出し品を準備している人も、わずか六割でした。さらに、避難場所を知らない人が六割あり、ハザードマップを見たことがない人は、八割以上もいました。
四、普及活動
福島県の防災手帳を全校生徒に配布し、生徒手帳等に入れて携帯してもらうようにしました。
また、防災だよりを作り、全校生徒に配布しました。さらに、高校から四倉駅までのハザードマップを作成しました。津波の一時避難場所は、諏訪神社、北辰妙見尊、海蔵寺です。工夫した点は、東日本大震災で津波が到達した地域を水色



五、まとめ
以上の研究より、津波被害にあった町に住むものとして、次の点が大事であることが分かりました。
①公的な機関の人が転動しても、風化しないよう、伝えていくこと
②地震が来たら津波が来ると判断し、すぐ逃げ、津波はくり返しおそってくるので、戻らない、と意識する
③津波避難訓練を定期的に実施し、参加し、いざというときに行動できるようにしておく
④避難所は物資が足りないため、自分でも非常持ち出し品を準備しておく
今回の研究を行い、震災の教訓を風化しないように、伝え続けていこうと強く思いました。



で染めた点です。これを、本校の掲示板に貼り、全校生徒に知ってもらうようにしました。



PTA活動を振り返って

PTA会長 村田 安則

二年間の期間を微力ではありますがありますが全うできました。これは諸先生方、職員の皆様のご指導とPTA会員の皆様のご協力の賜物であり、改めて感謝申し上げます。

私事ではありますが二人の子供の最後の一人が卒業となり、小、中、高と続いたPTA活動も最後となりました。今となっては一抹の寂しさを感じております。私は会長や役員というこ

とに関わらず中学までと高校とではPTAの在り方というものが大きく違うものだと感じています。

中学生までは各自の質や量の違いはあれど勉強する内容は同じであり、少なくとも私などはどの高校を選ぶか程度の話し合いしかしていません。

高校生になれば進学、就職という大きな選択はもちろ

の学科、どの業種、市内・県内・県外と様々な条件があり、先生の考え・親の考え・子の考えとそれぞれの思いも含めて進路を考えなければなりません。

何よりも子供たちが出来るだけ後悔しないよう、親も強制するだけでは無くお互いに良く話し合うことが必要であり、早めに方向性を決めて協力してあげることが重要な事ではないでしょうか。

そういった意味でもPTAの役員を務める事は、より子供と向き合える機会が増え、先生方や他校のPTA役員との交流も有りませので、大変さよりも助かったことのほうが多かったと感じています。

保護者の皆様には積極的にPTA活動に参加されることを願っています。一年間本当にありがとうございました。

PTA活動から

PTA総会 2013.4.27 in本校第一体育館

5月8日(水)に行われたPTA説明会と合わせて145名(60.0%)の出席。いわき市総合磐城共立病院 産婦人科 本多つよし先生により『医療現場から見た10代の性～自分が感じていることを中心に～』の講演が行われ、会場で、大変熱心に耳を傾けました。

第63回 福島県高等学校PTA連合会 いわき大会

「未来へつなごう。大切ないのちを。～福島で生きる子供達の未来へ～」

2013.6.6～7日 inスパリゾート・ハワイアンズ

本校より、のべ14名が参加。2日目は第2分科会進路対策委員会(就職)で村田安則会長が「四倉高校における進路指導(就職)の取り組みについて」の問題提起を行いました。いわき地区を初め、県内のさまざまな学校と交流を図ることができました。会長さん、お疲れ様でした。



第62回 東北地区高等学校PTA連合会 山形大会

2013.7.11～12 in山形市総合スポーツセンター

「東北大会に参加して」 PTA副会長 新妻 美香

山形大会が7月12日～13日に行われ、折笠先生とPTA役員の吉田美香さんと共に参加してきました。山形市総合センターで記念講演となる「21世紀に生き残る学力をつける勉強法と学習の習慣」の発表や、山形中央高等学校吹奏楽部の素晴らしい演奏もありました。夜はおいしいお酒や米沢牛を堪能しました。心にも体にも美のある有意義な研修となりました。



平成25年度 いわき地区高P連進路対策第一(就職)委員会・研修会

2013.10.2 inいわき市総合保健福祉センター

講演1 「いわき市における高校生の就職状況について」

講師 ハローワーク平 平公共職業安定所 上席職業指導官 齋藤信也氏

講演2 「保護者にも知って欲しい! 企業が求める人材になるために今すべきこと」

講師 飛馬オープンカレッジいわき校 就職支援担当 奥寺絵里氏

本校が事務局となり、講演会を開催しました。高校生の就職の現状と親子の心構えについてより具体的、実践的に学ぶことができたと思います。役員の方々も積極的にお手伝いに来てくれました。阿部委員長、お疲れ様でした。



四倉・久之浜方部PTA連絡協議会「教育講演会」

2013.10.20 in福島県いわき市海浜自然の家

「子どもの心と家族間コミュニケーション」

講師 越谷心理支援センター所長 常盤大学大学院化学研究科准教授 秋山 邦久 氏

今年度も震災の影響により、球技大会は開催できず、講演会になりました。秋山先生の楽しくなるお話の後、おいしいバイキングランチをいただきました。

あいさつ運動 2013.6.3 in本校校門 / 2013.10.18・11.1 in四ツ倉駅前

「あいさつ運動に参加して」 PTA副会長 保田 洋子

私があいさつ運動に参加して、一番思ったことは、きちんとあいさつができるお子さんもいるし、「もう少し」というお子さんもいるということです。私は声掛けはあいさつ運動の時だけかなと思っていましたが、先生方が毎日、校門前で声を掛けてくださっているのを見て、びっくりしたことを覚えています。先生方はいつも、生徒に声を掛けて、生徒の様子を見守ってくれています。「たかが、あいさつ」と思われるかもしれませんが、あいさつとは人と人とのつながりの中で大切な役割を果たしていると思います。あいさつの習慣づけは社会に出るための大切な一つのつなげの一つだと思います。



行事満載の大変多忙な一年でした。ご協力くださったすべての皆さん、本当にありがとうございました。

平成25年度 資格取得一覧

- 日本漢字能力検定
 - <H25.7.12>
 - 準2級: 5名、3級: 3名、4級: 2名
 - <H25.8.23>
 - 準2級: 1名、3級: 1名、4級: 1名
 - <H26.1.24>
 - 準2級: 1名、3級: 4名
- 実用数学技能検定
 - <H25.6.22/H25.11.15>
 - (1次: 計算技能検定) 3級: 5名
 - (2次: 数理技能検定) 3級: 1名
 - (1次: 計算技能検定) 準2級: 1名
- 日本英語検定協会主催実用英語技能検定
 - <①H25.6.9/7.7②H25.10.11/11.10③H26.1.24/2.23>
 - 3級: 5名
- 全国商業高等学校協会主催簿記検定試験
 - <H25.6.23> 3級: 7名
 - <H26.1.26> 2級: 1名

- 全国商業高等学校協会主催ビジネス文書実務検定試験
 - <H25.6.30>
 - 速度部門 1級: 1名、2級: 1名
 - 速度部門 2級: 2名、3級: 9名
 - 文書部門 3級: 1名
 - <H25.11.24>
 - 速度部門 3級: 1名、2級: 1名
 - 速度部門 2級: 1名
 - 文書部門 3級: 1名
- 全国商業高等学校協会主催情報処理
 - <H26.1.19> 3級: 23名
- 乙種4類危険物取扱者
 - <H25.6.8> <H25.10.19> <H26.2.15>
- フォークリフト運転(1t未満)
 - <H25.7.30～7.31> 特別教育修了: 34名
- 小型車両系建設機械運転(3t未満)
 - <H25.8.1～8.2> 特別教育修了: 26名
- 介護職員初任者研修 <H25.9.1> 6名

- 写真協力
 - 石川 弘子
 - 丹野 七重
 - 長崎 由美子
 - 金澤 有香
 - 草野 友子
 - 調査広報委員会
 - 保田 洋子
 - 栗野 美恵子
 - 新妻 美香
 - 庄司 久美子
 - 渡辺 正子
 - 吉田 美香
 - 村田 安則
- PTA役員
 - 村田 安則
 - 吉田 美香
 - 渡辺 正子
 - 庄司 久美子
 - 新妻 美香
 - 栗野 美恵子
 - 保田 洋子

編集後記

今年も例年通り「よつば」を発行できることをうれしく思います。また、御多忙にもかかわらず、突然の原稿の依頼など快く引き受けてくださった皆様、そして編集に関わってくださった皆様に感謝いたします。本当にありがとうございました。

校長先生の「ちょらっ」と校内研修会から

校長 池田健一郎

では、昨年十月に県教育センターから講師を招き、教員対象の研修会を行った。研修ではLINEやツイッターについての説明もあった。LINEは、多人数でチャット(トーク)ができるなどの利点がある反面、友人を介して見ず知らずの人と簡単につながってしまうなどの欠点もある。また、ツイッターでは、今起きていることや感じてい

「炎上」こともある。困った当事者が内容の削除を要請しても、「コピーサイトがどこかに存在して削除することができない。それほど怖い。その人が何年後かに就職が決まったとしても、企業の採用担当者がネット上を検索して過去の炎上事件のことを知り、折角の内定が取り消されるケースもあるらしい。

ただ一度の書き込みが、その人の一生を狂わせることにもなりかねない。便利な道具ではあるが、使い方を誤ると取り返しのでない事態を招く。子どもを守る立場の私たち大人も、改めて、このことを強く認識しておきたいものだ。